

2020年4月26日
宮崎中部教会主日礼拝
牧師 乾元美

詩編 126 編 5～6 節

ルカによる福音書 8 章 4～15 節

「御言葉が実を結ぶ」

<種を蒔く人のたとえ>

先週、共に御言葉を聞きました 8 章 1 節で、「イエスは神の国を宣べ伝え、その福音を告げ知らせながら、町や村を巡って旅を続けられた」とありました。

神の国の福音というのは、神さまの恵みによるご支配のことであり、わたしたちに罪からの解放を告げる、救いの良い知らせのことです。イエスさまは、その神の国の福音を、あちこちの町で、村で、大勢の人々に告げ知らせておられます。

今日の聖書の中で、イエスさまはたとえ話と、その意味を説明しておられますが、その中で「種は神の御言葉である」と語られていました。まさに、イエスさまご自身が「種を蒔く人」であり、神の国の福音、神の御言葉という「種」を、人々のもとを訪れて、歩き回って、たくさん蒔いておられたのです。

今日のイエスさまのお話は、その種が実を結ぶか、結ばないか、ということです。

イエスさまのお話しでは、三つの実を結ばないパターンと、一つの豊かに実を結ぶパターンが語られていました。

実らない種のパターンの一つ目は、道端に落ちた種です。これは、人々に踏みつけられ、空の鳥が食べてしまいました。この意味をイエスさまは、「道端のものとは、御言葉を聞くが、信じて救われることのないように、後から悪魔が来て、その心から御言葉を奪い去る人たちである」と言われています。

二つ目は、石地に落ちた種です。この種は、芽は出たが、水気が無いので枯れてしまったと言います。これは、「御言葉を聞くと喜んで受け入れるが、根がないので、しばらく信じて、試練に遭うと身を引いてしまう人たちのこと」です。

三つめは、茨の中に落ちた種です。すると芽と一緒に茨も伸びて、押しつぶさってしまいました。この意味は、「御言葉を聞くが、途中で人生の思い煩いや富や快樂に覆いふさがれて、実が熟すまでに至らない人たち」である、と言います。

そして、豊かに実るのは、良い地に落ちた種です。これは生え出て、百倍の実を結びました。イエスさまは、「良い土地に落ちたのは、立派な善い心で御言葉を聞き、よく守り、忍耐して実を結ぶ人たちである」と言われます。

さて、ここで、わたしたちは考えるのではないのでしょうか。自分はどれかな、と。

とても、立派な善い心で御言葉を聞いているなんて言えない。まず立派な善い心ってどんな心だろう。しかも神の御言葉をよく守り、忍耐している、なんて言ったら、誰がやねんとなつこまれてしまうだろう。

そして、他のパターンはすべて心当たりがある。御言葉を聞いても、すぐに忘れて、心の中から消えてしまう。ある御言葉を聞いて、とても感動して喜ぶことがあるけれど、苦しいこと、理不尽なこと、自分が受け入れられないようなことが起こると、その喜びも忘れてしまって、御言葉に反発したり、疑ったりして、御言葉から離れてしまう。また、御言葉を毎週聞くけれど、聖書を毎日読むけれど、人生の思い煩い、富、快樂に覆い塞がれてしまう。日々の出来事か、御言葉か。どちらが心をより多く占めているかと言われたら、いつも、どんな時も、心を満たしているのは御言葉です、と言えるだろうか。

ここはちょっと思いを改めて、がんばって自分の心を律して、立派な善い心を持つように努力しなければならないかな…。反省しつつそんな風に思うのではないのでしょうか。

でも、わたしたちの決意なんて、いつでも簡単に、軽く吹っ飛んでしまうものです。

<神の国の秘密>

このたとえを語られたイエスさまは、そんなわたしたちの弱さや、御言葉を受け入れることが困難な者であることを、よくご存じです。わたしたちが、いつも種が実を結ばない三つのパターンに陥りがちなことも、よく知っておられます。

ですからイエスさまは、わたしたちに御言葉が百倍実るように、良い土地になりなさい、立派になり、善い心を持ちなさい、と発破をかけるために、このようなたとえ話を語られたわけではありません。

では、この「種を蒔く人のたとえ」は何を教えようとしているのでしょうか。

大切なのは、9～10節のところですよ。

まずイエスさまは、種を蒔く人のたとえを大勢の群衆に向かって話されました。その後、弟子たちは、このたとえはどんな意味かと尋ねました。そして、そのたとえの意味を説明して下さる前に、イエスさまはこのように言われたのです。

「あなたがたには神の国の秘密を悟ることが許されているが、他の人々にはたとえを用いて話すのだ。それは、／『彼らが見ても見えず、／聞いても理解できない』／ようになるためである。」

これはちょっと理解が難しい内容です。まず、弟子たちには「あなたがたは神の国の秘密を悟ることが許されている」と言われています。

でも、「他の人々にはたとえを用いて話す」と言われ、それは「彼らが見ても見えず、聞いても理解できない」ようになるためだ、と言われるのです。

わたしたちは、そもそも「たとえ」というのは、難解なことを出来るだけ簡単に理解するために、他のものになぞらえて語り、だと認識しているのではないのでしょうか。

でも、ここでは「たとえ」は「秘密」を説き明かすものではなくて、むしろ秘密や謎その

ものなのです。

イエスさまは「他の人々にはたとえを用いて話すのだ」と言われていますが、その意味を捉えて言い換えるなら、「他の人々は、たとえの中に残されるのだ／たとえの中に置いて行かれるのだ」という感じです。だから、「たとえ」の中に残された者は、秘密を悟ることが出来ず、イザヤ書 6 章 9～10 節から引用されているように、「見ても見えず、聞いても理解できない」のです。

イエスさまは、神の国について、わたしたちに語って下さいます。でもそれは、人間の知識や理性で理解することは困難なことなのです。

イエスさまは「たとえ」で、「神の国の秘密」について語られます。秘密とは「ミステリーオン」という言葉で、「ミステリー」の語源です。神の国、神のご支配は、わたしたちの目には見えないものであり、理解を大きく超えたものです。まさにミステリーであり、わたしたちが自分の力で理解したり、把握することは出来ない事柄なのです。

でも神の国は、天地をお造りになった神さまが確かにご支配し、働いて下さっている、目に見えない真実なのです。

イエスさまは、たとえについて質問をしてきた弟子たちに、「あなたがたには神の国の秘密を悟ることが許されている」と言われました。そして、イエスさまはここでたとえを説き明かして下さいました。

神の国の秘密は、神さまご自身によって、イエスさまがわたしたちに示して下さいることによって、わたしたちに明らかにされるのです。イエスさまが、わたしたちに神の国の秘密を、神のご支配を、神のご計画を示し、悟らせて下さるのです。

弟子たち、従って来た者たちには、イエスさまが語りかけて下さることによって、イエスさまが共にいて下さることによって、御言葉を教えられ、恵みの御業を体験し、秘密を悟ることが出来るようにして下さいます。

<良い土地>

ですからイエスさまは、今ご自分と共にいる、従ってきた弟子たちに言われたのです。「わたしと共にいるあなたたちには、神の国の秘密が明らかにされる。」「神のご支配について知ることが出来る。神の御言葉を豊かに実らせることが出来る。」

イエスさまは、ここで神の御言葉を聞いている者たちに、「わたしのもとで、わたしの言葉を聞いているあなたたちは、良い土地だ。あなたたちには、百倍にも実る豊かな実りが約束されているのだ」と語って下さっているのです。

「聞く耳のある者は聞きなさい。」あなたは今、あなたの救いの知らせを、神の言葉を聞いているではないか。そう、言われているのです。

ですから、「良い土地」「立派な善い心」というのは、その人自身の立派な行いや、善い心がけ、などではありません。イエスさまと共にある人のことであり、神の御言葉を聞いて、

それを信じ、受け入れる心のことなのです。

種を蒔いて下さるのはイエスさまであり、また、成長して実を結ぶ力を持っているのは、種そのものです。イエスさまが、御言葉をわたしたちに与えて下さり、その御言葉がわたしたちの内に働いて、根を張り、伸ばし、しっかりと結びついて成長していくのです。そして、豊かな実りをもたらすのです。

だから、その種を、手放さないようにしなさい。御言葉を心の中に持ち続け、そして、神さまがその力を現わして下さる時を、実を結ばせて下さる時を、忍耐して待っていなさい、ということです。

でも、わたしたちは、こう思うかも知れません。わたしは与えられた種を手放さずに持っていることさえ、出来ないかも知れない。誘惑に負けて、悪魔が奪い去っていくかも知れない。苦しみによっても、悲しみによっても、また快樂によっても、御言葉から離れてしまう弱い心しかない。種を、自ら捨ててしまうかも知れない。何とか種を持っていても、忍耐する力がないかも知れない。

確かにそうです。そして、十二人の弟子たちもそうでした。彼らはここでイエスさまに、「あなたがたには神の国の秘密を悟ることが許されている」と言われました。「良い土地だ」「百倍の実を結ぶ」と言われました。それなのに、この後、イエスさまが十字架に架けられる時には、弟子たちはイエスさまを引き渡し、裏切り、捨て去り、逃亡したではありませんか。まるで三つの実を結ばないパターンを、地で行ってしまったではありませんか。

それでも。それでもです。イエスさまが、種を蒔いて下さるのです。何度でも、何度でも、神の御言葉を語りかけて下さるのです。神の御言葉に、力があります。神さまご自身が、働いて下さいます。だからわたしたちは、自分の弱さや、自分の無力さではなくて、神の御言葉の力を見つめ、信じなさい、とされているのです。

そのためにイエスさまは、弟子たちを、わたしたちを、良い土地にするために、わたしたちの罪を、裁きを、死をすべて担って、十字架の苦難の道を歩まれたのです。そして、すべてに打ち勝ち、復活させられたのです。イエスさまが、わたしの弱さを、罪を、滅びを、すべて克服して下さったのです。

このイエスさまが、「わたしと共にいるなら、わたしの言葉を受け入れるなら、あなたたちは豊かな実を結ぶ。神のご支配の内に置かれ、救いの恵みに与る。新しい命に生きることが出来る。」そう言って下さるのです。

まず、わたしたちには思いも及ばないような忍耐をもって、わたしたちを手放さず保って下さったのは、イエスさまの方です。涙と共に種を蒔いて下さった方は、この方です。でも、それは喜びと共に刈り入れられるのです。これは、確かな約束です。

わたしたちは、自分の力で悪魔から種を奪い返し、試練に打ち勝ち、思い煩いを解決するように言われているではありません。

イエスさまが、ご自分の十字架の死と復活によって実現して下さった救いを信じて、この神さまの力に頼ること。信じて委ねること。イエスさまが罪から救い出し、神さまの愛のご支配の内に捕らえて下さった、その救いの恵みに留まるように、とされているのです。

わたしたちは、救いの恵みに与り、神の御言葉によって生かされています。それでもなお、他のものに心を奪われたり、目の前の試練によって心が枯れてしまうような思いをしたり、思い煩いや様々なことに心を覆い塞がれたりすることがあります。

でもそのような時、わたしたちには、イエスさまが蒔いて下さった種が、神さまの御言葉が、確かに与えられていることを思い起こさなければなりません。そして、それは百倍の実を結ぶと約束されているのですから、わたしたちは、神さまの力によってその実りが与えられる時を、御言葉を聞きつつ、イエスさまが共にいて下さることによって、忍耐して待つことが出来るのです。そのようにしてわたしたちは、イエスさまによって良い土地とされ、イエスさまによって豊かな実を結ぶのです。

【お祈り】

天の父なる神さま

御子イエスさまが、わたしたちに神のご支配を告げ知らせてくださったこと、神の御言葉の種を、蒔き続けて下さったことを感謝いたします。

わたしたちは、自分の弱さや小ささを見つめればきりがなく、絶望するしかありません。でも、イエスさまが、わたしたちの弱さも、罪も、滅びも、絶望も、すべてを担い、神のご支配を告げ知らせて下さいました。あなたの御言葉が、わたしを支え、生かし、実を結ばせて下さいます。

確かに与えられた御言葉の種をしっかりと受け入れ、保ち、あなたが望まれる時に、あなたの力によって、百倍もの実を結んで与えて下さることを、確かな希望のうちに、忍耐強く待つ者となることが出来るようにして下さい。

いつもイエスさまが共にいて下さり、聖霊によって御言葉を悟らせて下さり、あなたに信頼を置いて日々を歩む者とならせて下さい。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン